

## —若手技術者のコーナー—

## これまでの職務経験を活かして

## 1. はじめに

石川県は本州の日本海側中央部に位置している。海、山が近く、また歴史的、近代的な建造物が共存しており、自然・文化ともに豊かな地域である。

私は大阪の大学を出て、生まれ育った石川県で就職した。それから民間で12年間、建築設計の実務経験をして、昨年4月より職務経験者として石川県に入庁した。現在は土木部営繕課の2年目である。

私は今年38歳で決して若くはないが、石川県職員としてはまだ経験が浅いので、若手技術者のコーナーに投稿する。

2. これまでの仕事を振り返って  
～民間と公共の違いについて～

## 1) 民間の仕事

民間時代を改めて振り返る。20代後半は金沢の個人の建築設計事務所（5年間勤務）、30代は金沢の住宅メーカー（7年間勤務）で建築設計に取り組んだ。

設計事務所では、個としての設計の思想や手法、そしてそのプロセスの大切さを学んだ。

住宅ハウスメーカーでは、組織としてのものづくり、協働関係づくりの大切さを学んだ。

どちらの職場でも、表現方法に違いはあるが、地域性を大切にした建物を設計していた。幼稚園や教会、医院、店舗等の設計にも携わったが、木造の住宅設計が主であった。

## 2) 公共の仕事

営繕課では、それまでの経験を活かし、木造の県営住宅30戸15棟の工事監理の前半を担当した。

それ以外にも木造住宅建築の枠を超えた県有施設的设计委託や工事監理、様々な照会・回答、総合評価方式に関わる仕事等、周りの助けを得ながらも幅広く新たな経験をさせてもらっている。

## 3) それぞれの違いと共通点

民間では会社を運営していくために利益を上げることは重要な目的である。しかし、公共の仕事に営利目的はない。その地域住民からの税金をもとに事業を動かしているからである。そのため、公共の仕事は何をするにも厳格に決められた書類での手続きが必要となる。その点が民間との違いにつながって

いるように感じる。

しかし、民間であれ公共であれ、何れにしても社会から必要とされる存在でなければならない。そのため、より豊かな生活基盤を築くために地域社会のインフラを整備、維持することが求められる。建築の仕事に関して言えば、実際にその建物を利用する人に安心、安全を提供し、さらには施設の性格に合わせた豊かな空間づくりが求められる。このことは民間と公共、どちらの仕事においても共通して言えることである。

一方で、公共施設の設計においては、実際に建物を利用する人は不特定多数であることが多い。個人の住宅設計において、特定の人たちに喜んでもらえることにやりがいを感じていた私からすると、それはとても大きな違いを感じる。

## 3. おわりに～これからの抱負～

建築の仕事の魅力は、世代を超えて形として残ること。そして、利用する人たちに喜んでもらえることだと思っている。

民間でのこれまでの職務経験を活かしながら、これまで以上に想像力を働かせ、建物を利用する人たちの喜ぶシーンを思い浮かべながら建築と向き合っていきたい。

また、土木と建築の棲み分けを明確にせず、互いに積極的に関わることも必要だと最近感じている。相互補完を超えて、より質が高く、豊かなものづくり、ふるさとの資産づくりを目指していきたい。



木造の県営住宅の工事現場にて

(石川県 土木部 営繕課 三村 健二)